



「笑顔とつながり」

# 永田台

ユネスコスクール10周年

No.542 3月号  
横浜市立永田台小学校  
TEL(714)4277  
令和3年2月26日



進んであいさつ  
笑顔あふれる  
住みよいまちに



## 未来に向かって生きる

校長 武山 朋子

1年前の3月2日の朝に、校内放送で翌日からの学校休業を伝えたことを、ついこの間のことのように思い出します。あれから1年が経ちましたが、新型コロナウイルス感染拡大の危機からは脱しきれていない今があります。

その一方で、まったく先の見えなかった当時と異なり、どんなことに注意して過ごせばいいのかわかる程度分かってきました。そのため活動に制限はあるものの、十分気を付けながらいろいろな教科等の学習をしたり、友達との楽しい時間を過ごしたりすることができるようにもなりました。休み時間の運動場には子どもの元気な声が響き、教室では友達の発表を聞きながら学び合う様子も見られます。とはいえ、やはり校長としては、子どもたちはこんな学校生活をどう感じているのだろう、と思いながら、子どもの姿を見つめてきた日々でした。

そんなある日のことです。教室を回っていたらちょうど中休みになり、近くにいた3年生の子どもたちが数人私の周りに集まってきて、おしゃべりが始まりました。そこで私は「もう少しで3月が来て、1年が終わってしまうね。3年生はどうだった？」と尋ねたのです。すると…

「短かったよね。はじめの1か月はまだよかったけど、後は早く学校に行きたかったし。」

「今年はやりたいこともあったけど、なんか楽しかった。」

「できないことはあるけど、できることをしたから。」

「特に、染め物(このクラスが総合で取り組んでいる草木染)が楽しかったな。」

「最初はうまくいかなくて。だから、何回も『修行』をがんばったんだ。」

「きっと、最初の1回でできてたら、そう思わなかったと思う。」

「頑張ってきたから、なんか、達成感があったんだよね。」

「はじめはうまくいかなくて…」 「そうそう！」



できないことがあっても、できることをすればいいということ。できることには精一杯取り組むということ。失敗をしてもあきらめないということ。失敗ののちの成功だからこそ、喜びとなり自信となるということ。…… 3年生の子どもたちの会話から、未来に向かって生きるために必要なことを教わったように思いました。

今年度、できないこともたくさんありました。でも、できることには精一杯取り組んできた永田台小学校です。一人一人の子どもが未来に向かって歩むために確かに必要な力を、こういう1年だったからこそより確かに身に付けることができたのかもしれない。そんな学校の営みを温かく見守り、ご支援いただいた保護者の皆様、地域の皆様のまなざしに、心から感謝を申し上げます。成長した子どもの姿を少しでも、最後の授業参観でお見せできますように…。